

## オルメサルタン錠10mg「JG」の安定性試験(無包装)

### 1. 試験目的

オルメサルタン錠10mg「JG」を無包装状態で下記条件にて保存し、安定性を確認した。

### 2. 保存条件

- ・温度に対する安定性試験: 40±2°C 3ヵ月 [遮光・気密容器]
- ・湿度に対する安定性試験: 25±2°C/75±5%RH 2ヵ月 [遮光・開放]  
25±2°C/60±5%RH 3ヵ月 [遮光・開放]
- ・光に対する安定性試験: 120万lx・hr(2000lx・25日) 25°C [気密容器]

### 3. 試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、溶出性、含量、硬度<参考値>

### 4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる(一部改変)。<安定性の評価基準の項参照>

### 5. 試験結果

		規格	試験開始時	3ヵ月後
温度	性状	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠
	純度試験	(1)	適合	適合
	溶出性(%)※	30分間で80%以上	99.7(98.5-100.2)	98.4(97.3-99.4)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	99.92 [100]	98.66 [98.74]
	硬度(kgf)	<参考値>	7.2	7.8
評価			—	◎

		規格	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	
湿度	75%	性状	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠	—	
		純度試験	(1)	適合	適合	不適合	—
		溶出性(%)※	30分間で80%以上	99.7(98.5-100.2)	100.6(99.4-101.5)	100.5(99.3-101.0)	—
		含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	99.92 [100]	98.69 [98.77]	98.52 [98.60]	—
		硬度(kgf)	<参考値>	7.2	3.7	4.3	—
	評価			—	○	△	—
	60%	性状	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠	—	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠
		純度試験	(1)	適合	—	適合	適合
		溶出性(%)※	30分間で80%以上	99.7(98.5-100.2)	—	98.9(98.0-100.5)	97.6(97.1-98.7)
		含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	99.92 [100]	—	98.82 [98.90]	98.81 [98.89]
硬度(kgf)		<参考値>	7.2	—	4.5	5.0	
評価			—	—	○	○	

		規格	試験開始時	120万lx・hr
光	性状	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠	白色の片面割線入りの素錠
	純度試験	(1)	適合	適合
	溶出性(%)※	30分間で80%以上	99.7(98.5-100.2)	99.9(98.8-100.9)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	99.92 [100]	99.15 [99.23]
	硬度(kgf)	<参考値>	7.2	6.9
評価			—	◎

(1) 個々の類縁物質RRT約0.2及び約1.6は0.6%以下、その他は0.2%以下、総類縁物質1.4%以下

(RRT: 試料溶液のオルメサルタンメドキシミルの保持時間を1とした場合の類縁物質ピークの相対保持時間)

※溶出性(%): 平均(最小-最大)

純度試験の詳細<類縁物質質量(%)>

RRT	規格	試験開始時	湿度					光 120万lx・hr
			温度 3ヵ月後	75%RH		60%RH		
				1ヵ月後	2ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	
約0.2	0.6%以下	0.07	0.36	0.48	<b>0.62</b>	0.44	0.57	0.10
約1.6	0.6%以下	未検出	0.02	0.01	未検出	未検出	未検出	0.01
その他	0.2%以下	0.04	0.04	0.05	0.03	0.03	0.05	0.08
総類縁	1.4%以下	0.13	0.54	0.59	0.73	0.51	0.69	0.31

6. 結論

高湿度下(25°C/75%RH、2ヵ月)において類縁物質の増加(規格外への変化)が認められ、高湿度下(25°C/75%RH、1ヵ月)及び(25°C/60%RH、2ヵ月)において硬度の低下傾向(7.2kgf→3.7kgf及び4.5kgf)が見られた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った(一部改変)。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。